



## 4. 緊急浚渫推進事業の恒久的な制度化

**御礼** 緊急浚渫推進事業により、浚渫が飛躍的に進んだことに感謝します。

### 事業効果

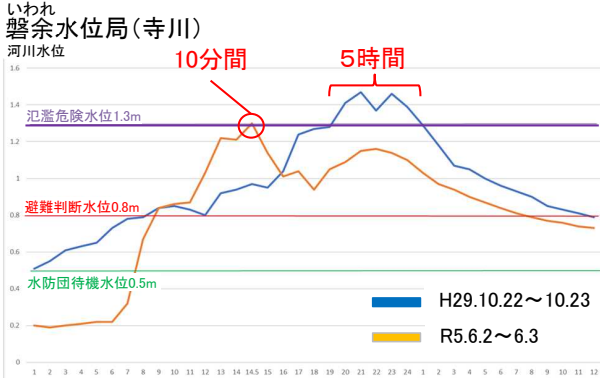
令和2年度から緊急浚渫推進事業を活用し、集中的な浚渫を推進しています。その結果、浸水被害が大きく軽減しています。

#### 浚渫に係る 予算と掘削土量の推移

※H28→R5で約4.0倍の予算



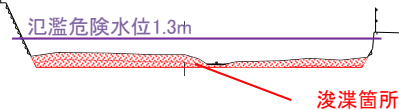
平成29年の豪雨では、寺川(桜井市磐余)で氾濫危険水位を約5時間(最大17cm)超過しましたが、同程度の降雨量である令和5年6月の豪雨では、対策実施等の効果により、10分間(±0cm)の超過にとどまりました。



令和5年6月2日 河川水位状況



断面図



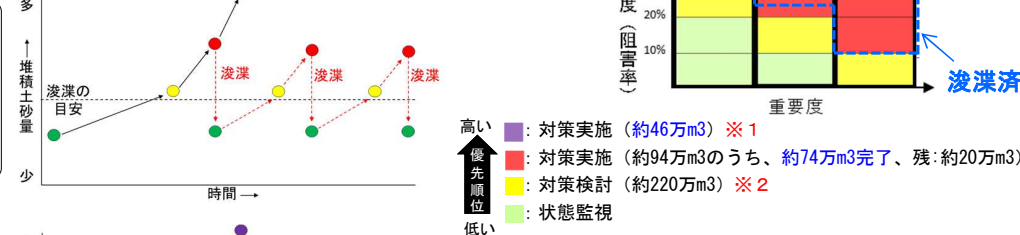
## 浸水被害軽減に向けた更なる事業推進

大和川水系など奈良県の河川では、概ね下流から約120万m<sup>3</sup>の浚渫が完了しましたが、浚渫が必要な箇所はまだ残っています(約240万m<sup>3</sup>)。

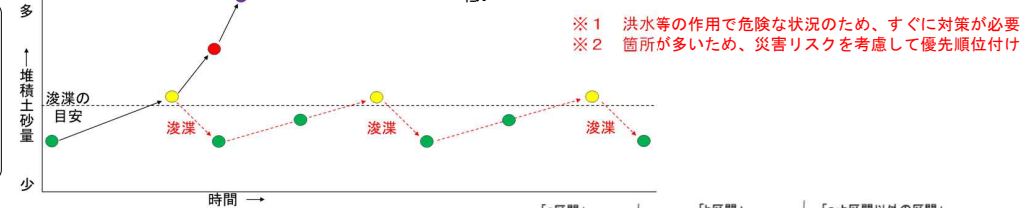
上流では土砂がまだ堆積しており、放置すれば下流へ土砂が移動し、これまでの浚渫の効果を低減させてしまいます。上流の土砂を浚渫することで、その場所の災害リスクの低減はもちろん、下流の土砂堆積の抑制にもなり、流域全体の災害リスクの低減を効率的に実現することができます。

引き続き緊急浚渫推進事業の支援をお願いします。

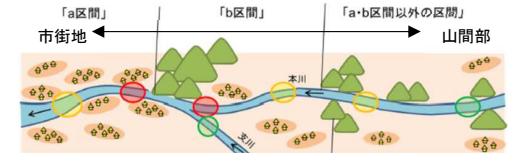
後の対策のイメージ



全区間を浚渫した後



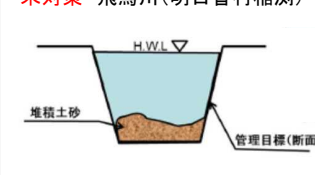
- ・a区間: 維持管理上特に重要な区間
- ・b区間: 維持管理上重要な区間
- ・c区間: 氾濫による人家への影響がほぼない区間



対策済 飛鳥川(橿原市新口町)



未対策 飛鳥川(明日香村稻渚)



断面図



## 国にお願いすること

### 4. 緊急浚渫推進事業の恒久的な制度化